

新聞を人生のパートナーに 100年時代



働くシニアの生き生き相談室

長寿化や少子高齢化で、働く機会を七十歳まで延ばす動きが広がっています。ミドル・シニアの間で、働き方にまつわる悩みや社会とのかわりへの模索も増えています。

「100年時代」では、

定年、転職、生きがい…悩みに答えます

来月新コーナー 回答者紹介

かな人生をテーマに調査研究をする一般社団法人「定年後研究所」所長。キャリア



命保険大手などを経て、定年後の豊

そんな中高年読者の相談に答える新コーナー「働くシニアの生き生き相談室」を五月五日から開設します(随時掲載)。回答するのは人生の転機を迎え、転職したり起業したりして経験を積んだ六人です。

▽池口武志さん(五〇) 生

会社「WINTECH」を起



社などを

▽西川由喜さん(五〇) 建



病の子の母となる

アコンサルタント。▽小林悦子さん(六〇) 幼稚園教諭時代に難病の子の母となり、看護師へ転身。一般社団法人「生活を支える看護師の会」会長で、看取り道先案内を務める。

▽本田恭助さん(六〇) 理



六十歳定

「日本NPOセンター」に出向し、主に企業との協働事業を手掛ける。

ありませ (大西隆)



強会「キ

業。交流分析士インストラクターやライフデザイン。アドバイザーも務める。

▽長谷川元宏さん(五〇) 業



告代理店

▽渡邊泰治さん(六〇) 県魚沼市の地域おこし協力隊員として単身移住。現在、同市地域おこしアドバイザーを務める。

定年後の生き方 24人紹介

人生の転機を経て、新たな役割や仕事を見つけた中高年を紹介した「定年NEXT 『働くシニア』24人のロールモデルに学ぶ」=写真=が出版された。著者は定年後研究所所長の池口武志さん。

「生涯現役時代が到来する中で、定年後も生き生きと仕事をする人と、消化試合のように仕事を続ける人との違いは何か」。そんな素朴な疑問から出発した。

登場するのは40～70代の24人。転職や転身、独立した人、会社内で貢献する人…。こうしたシニアは都市と農村、企業とNPO、子育て家族と地域というように別々の世界をつなぎ、付加価値を生み出すリエゾン



回答者の池口さん著

(架け橋)の役目を担っていると説く。

5月開設の「働くシニアの生き生き相談室」の回答予定者の5人も、同書で取り上げられている。池口さんは「人生後半の生き方や居場所作りに悩んでいたミドル・シニアに読んでいただければ」と話す。1100円。問い合わせは廣済堂出版編集部=電03(6703)0964=へ。